

東北地理学会シンポジウム

津波災害を如何に伝えるか—地元から後世および他地域に

日時：2017 年 10 月 28 日（土）15:00～17:30

場所：岩手県民会館 第一会議室

プログラム

開会挨拶<15:00～15:05> 村山良之（東北地理学会会長）

趣旨説明<15:05～15:10> 岩船昌起（鹿児島大）

研究報告<15:10～16:40>

1. 鈴木比奈子（防災科学技術研究所） 座長 岩船昌起

東日本沿岸における過去の津波災害の記録  
—その整理と地理空間情報の抽出—

2. 田村俊和（東北大・名誉教授）

明治以降の大津波災害とその記録の残し方—山田町を事例に—

3. 佐藤孝雄（山田町総務課）

山田町の東日本大震災記録誌—その編集テーマと制作過程—  
（休憩）〔5分〕

4. 岩船昌起（鹿児島大） 座長 田村俊和

避難行動と避難生活を如何に伝えるか  
—山田町「震災記録誌」のねらい—

5. 阿部 隆（東北大・院）

避難所・避難生活者の動きを記録する

6. 瀬戸真之（福島大）

人間行動の基盤としての土地条件を地形学的視点で記録する

7. 岩船昌起（鹿児島大）

避難者の行動や思いを避難環境と結ぶ  
—地図・現場での証言の時空間的検証—

（休憩）〔5分〕

総合討論 <16:50～17:30>

座長 田村俊和・岩船昌起

コメント 駒木伸比古（愛知大）

震災による買い物環境の変化の記録  
—フードデザート研究の視点から—

総括および閉会挨拶 田村俊和（東北大・名誉教授）

主催：東北地理学会 共催：日本地理学会被災地再建研究グループ

後援：岩手県山田町、岩手県立大学、NHK 盛岡放送局、岩手日報社

※本集会は「日本地理学会被災地再建研究グループ 2017 年度第 1 回研究集会」を兼ねる